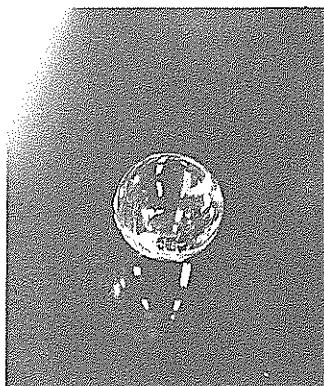


◎ 第20回親子クイズの答えはコマでした。今回は六十七通の応募がありました。お便りにあった皆さんの思い出の一部をご紹介します。

親子クイズ 202

これはなんでしょう



○ 蒲原あかりさん(大塙甲)

昨年、父がどんぐりでコマを作つてくれました。私のマスコットです。

○ 竹田京子さん(東崎)

“木”でできているおもちゃにはなぜかぬくもりを感じますね。十八歳になる長男も、小さいころにはコマやけん玉等で遊んだものです。現在は見向きもされずおもちゃ箱の中です。

○ 西山幸さん(下末松)

コマを回すのは、とてもこつがいつて、難しいものでした。曲芸師的にじようずな男の子たちがいましたが、今はどうでしょうか。

○ 森田武一さん(後免町)

正月、売り初めて母が買つてくれた。早く欲しかつたがなかなか買つてもえなかつた。数万円のお年玉をもらつ今の子供よりもずっとつかつたのだ。

○ 宮地豊茂さん(浜牧田)

昔は上の周りに幅一㍍ぐらいの金で鉢巻きをしてあります。コマどうしがけり合いをしたもので。また、使ふときは木が乾いて金がゆるくなりますが水の中へつけて使つたことが記憶にあります。

券を進呈

第20回当選者発表(敬称略)
細川鈴加(十重) 門田奈実可(久礼田)
岡林りさ(東崎) 蒲原あかり(大塙甲)
水野しづ(岡豊町定林寺)

あゆみ

家庭教育学級専任講師 田植 静代

一年生の和男は鉄道のわきにある自

分の家庭で、一人で遊んでいました。父親が入ってきて、和男に「今晚はお

鉄道は、家の東側の土手の上を走つて

父さんも、お前といつしょに罰を受け

るのだ」と言つて、和男の前に座ります。

和男はふと線路に石を置いておい

たら、どんなに砕けるか知りたいと考

えて、土手をはい登つて小石を線路の

上に置きました。

幸いなことに小石は事前に発見され

何事も起こりませんでした。

両親と和男が鉄道公安室に呼び出さ

れ、厳重な注意を受けたのは当然のことです。けれど和男には身にしみる罪の意識はありません。父親はこのこと

の重大さを、和男にどう分からせるか悩みました。

泣きわめく和男を物置に入れた父親は、しばらくして泣きじやくる和男の

両肩に手をかけ、小石を線路に置くこと

がいかに恐ろしいことか、たくさん

の人々の生命の問題であることを話し、しもしからなかつたりします。

今日は夕食は食べれない、またこの物

置から出ではならないと命じました。

ところが案外親のしかり方は、親の

気持ちしだいで左右されたり、感情的

になりやすいものです。ある時は厳しくなり、ある時は同じことでも、少

い場合に、親は子をしかるのでしょうか。

するうえで、当然身につけておかねば

ならない行動や、道徳的判断ができない

親は子をしかるのです。

和男の父は、自分も子の痛みを分け

あいながら、子に善悪の判断を迫つた

からこそ、子は身にしみて反省できた

のです。しかもことも親の真剣さが勝

負します。